

# 第10期介護保険事業計画期間における 認知症施策について

# 主な国の動向について

---

## 「2040年に向けたサービス提供体制等のあり方」検討会

- 「共生社会の実現を推進するための認知症基本法」を踏まえ、認知症になっても希望を持って暮らし続けることができるという「**新しい認知症観**」に基づく**施策を推進**する。
- 本人や家族が参画した共生社会の実現のため、認知症カフェや、ピアサポート活動、本人ミーティングなど、**認知症の人が地域で活躍できる環境の整備**をする必要がある。
- 認知症やMCIによる社会的孤立のリスクが高まっていることから、ある程度の自立生活を営むことができる軽度の認知症の人にとって、**インフォーマルな支援(※)**は重要である。  
(※)介護保険や医療保険制度に基づかない個人的・地域的な支援
- 2040年に向けた超高齢社会においては、社会的孤立を解消し、地域社会とつながり、**必要なサービスのアクセシビリティを高める地域づくり**と地域の特性に応じた**統合的なサービス提供**を行っていく必要がある。

# これまでの取り組み状況（本人・家族参画）

## 第1回ワークショップ（令和7年7月29日）

【テーマ】 認知症の本人が意見を出しやすい進め方／話したいテーマ

- 参加者 認知症の本人7名、家族11名、認知症の人と家族の会2名、米子市2名
- 主な意見
  - ・行政が使用するカタカナの用語が分からない。
  - ・日常の中で認知症の本人や家族から発せられる言葉を使用してほしい。
  - ・認知症の人や家族にとって居心地の良い居場所が身近に増えてほしい。
  - ・認知症あんしんガイド(ケアパス)のことを知らないため、詳しく知りたい。

## 第2回ワークショップ（令和7年9月13日）

【テーマ】 認知症あんしんガイド(認知症ケアパス)について

- 参加者 認知症の本人7名、認知症の人と家族の会1名、米子市2名
- 主な意見
  - ・認知症であることを周囲にオープンにすることで、地域からの協力が得られ、安心して生活できている。
  - ・できないことを受け入れることで、通院などを前向きに捉えられるようになった。
  - ・道が分からなくなったら人に聞くことが大切。若い世代の人は、すぐにスマホで調べてくれて親切。

# これまでの取り組み状況（専門職に対する調査）

## 介護現場の実態把握のためのアンケート調査

認知症の本人や家族の生活における希望や認知症ケアに関する課題等を把握するため、市内介護サービス事業者に対し行ったアンケート調査。

（「介護現場の実態把握のためのアンケート調査」の項目の一部として実施）

### <主な分析結果>

#### ● 「認知症の本人の希望(できること・やりたいこと)」について

在宅で暮らす認知症の本人は、「食事に関すること」や「買い物に関すること」についての希望を多く持っている。施設等で暮らす認知症の本人は、「人との交流に関すること」や「食事に関すること」についての希望を多く持っている。

#### ● 「認知症の本人が自分らしく暮らしていくために必要と感ずること」について

居宅・施設サービスともに、「家族の認知症に対する理解の増進」が必要と考える割合が最も大きい。次点では、居宅サービスについては「地域住民や民間事業者の認知症に対する理解の増進」が必要と考える割合が大きく、施設サービスについては「医療・介護サービス関係者等の認知症に対する理解の増進」が必要と考える割合が大きい。

# これまでの取り組み状況（専門職に対する調査）

## 在宅生活改善調査

住み慣れた地域での生活の継続性を高めるために必要な支援やサービス、連携のあり方を検討するため、居宅介護支援事業所のケアマネジャーを対象に、担当する利用者の状況等を確認した調査。

### <主な分析結果>

#### ●「現在、家族等介護者の負担になっている介護」について

本人が、要支援1・2の場合、「外出の付き添い、送迎等」や「その他の家事（掃除、洗濯、買い物等）」が多く、要介護1・2の場合、「認知症状への対応」が最も多い。また、要介護3以上の場合、「日中の排泄」が最も多い。

#### ●「本人の生活の維持・家族等の就労継続のために充実が必要な生活支援」について

本人が、要支援1・2の場合、「外出同行（通院、買い物など）」や「買い物（宅配は含まない）」が多く、要介護1・2及び要介護3以上の場合については、「見守り、声かけ」が最も多い。

# 今後の認知症施策の方向性について

## 【目指す姿】 認知症とともに生きるまち

2040年に向けて、認知症の人や単身の高齢者が増加する中、  
社会的孤立を解消し、地域社会とつながり、必要なサービス・支援のアクセシビリティ(利用しやすさ)  
を高める地域づくり を推進していく必要がある。

### 取り組みの方向性(案)

- 1 認知症の人や家族が支援を求める声をあげやすい環境づくり
- 2 状況に合わせた切れ目のない相談支援につなげる体制づくり
- 3 見守り・交流の場所や居場所を確保し、人と人との「つながり」を実感できる地域づくり
- 4 民間事業者等などの地域の多様な主体との連携の強化 (官民連携の推進)

# 令和8年度のスケジュール(予定)と具体的な流れ

- 認知症の本人や家族の参画を強化するため、米子市主催のワークショップを開催する。  
(全2回を予定)
- 第10期介護保険事業計画における「認知症施策」について、米子市の認知症施策を考える会(オレンジの会)で内容の検討や素案に対する意見交換を行う。

## 主なスケジュール及び取り扱うテーマ(予定)

令和8年5月	第1回ワークショップ	
6月	第2回ワークショップ	
7月	第1回米子市の認知症施策を考える会 (オレンジの会)	ワークショップの意見集約 素案に対する意見交換(1回目)
10月	第2回米子市の認知症施策を考える会 (オレンジの会)	素案に対する意見交換(2回目)
令和9年1月	パブリックコメントの実施	
3月	条例改正・計画策定	